

洋書輸入協会会報

VOL. 9

NO. 11

(通巻 103 号) 昭和 50 年 11 月

理事会報告

10月13日(月)

(一) 9月分収支計算・予算対比表の検討。

会費収入がすこし遅れているので、督促することとなる。

(二) 通関委員会から雑誌通関の現状と問題点につき報告、討論。

さらに検討をすすめることとなる。

(三) フローレンス協定問題(前号参照)

文部省から協定の翻訳が届いたので、研究することとなる。

(四) 全国医学生自治会連絡会議からの申入れについて報告あり。

(五) 資料委員会から活動の現況につき報告あり。

(六) 明年京都で開催される I P A (International Publishers Association) の世界大会に際し、主催団体と連絡をとることに決定。

(七) フランクフルト書籍展視察団の現況につき文化厚生委員会から報告あり、今後さらに研究、工夫を重ねることとなる。

(八) 内外の諸情勢について討論。

(九) その他。

10月16日(木) 緊急理事会

(一) 英国郵送料の大幅上昇(本年すでに50%、明年も50~70%)について報告あり、対策を検討。

(二) 内外の諸情勢について討論。

(三) その他。

理事会報告……………	1
洋書交換委員会だより……………	2
通関委員会だより……………	2
オセロ国際書籍展視察団報告……………	3
1975・フランクフルト国際図書展・あとさき……………	4

ペンギンとその機構 (5)……………	5
海外ニュース……………	6
ニュース……………	6
通関統計……………	6
移転のお知らせ……………	6

おしらせ……………	7
総代理店ご案内……………	7
会員の横顔……………	7
広告(医学書院)……………	8

洋書交換委員会だより

オ 7 回 洋 書 ま つ り

洋書まつりも7回ともなると、余り新顔の出品社もなく手なれた会員ばかりで準備のための委員会も出品社総会を兼ねて2回しか開かず、今迄通りのプロセスで10月24、25日（金、土）の両日古書会館で開催。参加社数は昨年と同じ14社、レブは減って6社、併し会員の在庫減らしが効いてかブース数も減り、売上の心配がありましたが予想に反し、前回の一割アップの売上で委員一同ホットしました。陳列台の減少、二日目の降雨にしてはまづまづの成績と思

えます。相不変、原 Jr. が自社は出品されないのによく attendしていただきました。出品者の中には、タイトルページを版元に返し既にクレジットされた商品を若干出品された向きもあり、これは商道徳上も感心した事ではなく今後注意したいものです。会期中洋書センターの組員が入口でビラをまいていたのはどういう目的か分かりません。矢張痛感される事はPRの不足で、勿論資金面の事もありますが、来年の委員の課題だと思はれます。



通関委員会だより

1. 東京税関東京外郵便出張所の Book 通関手続窓口が10月1日より変更され、担当官の方も変わりました。

窓口 輸入才一部門（窓口1番）

担当 総括審査官 栗原増雄氏

審査官 大塚隆一氏

なお、通関許可済の I/D は輸入才二部門審査官 竹内昭三氏より返却されます。（JBIA No. 245 参照）

2. Book 通関手続の書類提出〆切日が、大蔵省の通関統計の関係で、毎月20日から毎月15日に改められました。

（JBIA No. 246 参照）

才七回 国際書籍展視察団報告

洋 販 村 山 靖 弘

洋書輸入協会主催「才七回国際書籍展視察旅行」の一行20名（協会員13名・8社）は、フランクフルト書籍展を中心とした20日間のヨーロッパ視察旅行より、去る10月26日（日）の南廻り LH 640 便で全員無事帰国いたしましたのでご報告申し上げます。

今回より幹事旅行会社が大平トラベル（大平住宅）に変更され、参加の方々よりも若干不安の声が上っておりますが、大きなトラブルもなく、無事終了することが出来たのも、関係各社の方々の暖かいご支援の賜ものと感謝致しております。

実際七回目と申ししましても、この旅行が企画されて以来の最低の参加人員で、募集期間中は終始実施出来るかどうかで、ハラハラの連続でした。予定していた方々の間際のキャンセル、病気等での不参加と人数が減ることがありましても増えることがありませんでした。幸い、私共20名以外の数人の方々への飛行機の席と観光の切売りが出来、ぎりぎりの人数で実施致しましたのが現状でございます。

今年の Frankfurt Book Fair は、才27回目にあたり、展示会参加出版社数は史上最高の4,039社（62ヶ国）に上り、出品書籍点数は251,000冊（内新刊書79,000冊）ということで、内外共にこのBook Fairに期待して参加する出版社が増えているようです。本年は、Book Fair事務局より視察団に対して、日本出発前より公式にCocktail Partyへの招待があり、事務局長の Mr. Peter Weidhass、理事の Mr. Gerhard A. Kurtze (Grosshause Wegner) 両氏が出席され、日本出版界、書店の情勢等に関して活発な意見交換がありました。その後、Party 参加者全員は事務局担当者の案内で、ブック・フェア会場の一画にある、ドイツ書店のモデル・ショップス等の見学をしました。すでに製品化され、既製品も出廻っている棚の数々、モニター・TV等近代的な店が三軒ありましたが、日本のように出版

物の氾濫によるSpace Warが常態になっている書店には、贅沢な display に溜息をつかされる思いでした。

今回の旅行では今迄にないトランクの被害がありました。才一番目にショッキングであったことは、ロンドンのヒースロー空港で、“サムソナイト”のトランクを持っている人ほとんどが、空港の荷役人によってバックを合鍵的なもので開けられたということです。貴重品はトランクに入れないようにと再三の注意がありましたので、特別被害に合った人はありませんでしたが、本当に不愉快なイギリスの才一歩でした。このようなケースは日本の団体旅行者を中心に数年前より起り、その都度 claim を申し入れても聞いてもらえないので、旅行代理店協会が外務省を通じて抗議を行っているのですが、ほとんど効果がないとのことです。今後、海外旅行をされる、サムソナイトをお持ちの方は十分注意下さい。又、参加女性が、フランクフルト到着の才一日目よりトランクが行え不明になり、帰国した現在も発見出来ないというハプニングに合いました。幸い参加された皆さまの暖かいご援助により、無事全日程を消化出来ましたが、以上は今迄にはなかったトラブルでした。

その他、いろいろ楽しかった思い出が多くありますが、紙面の都合で省略させていただきます。

最後に、今回のフランクフルト書籍展事務局との会合のために、いろいろお骨折り下さり、又、旅行中も通訳等でお世話になりました、エンデルレ書店のハンスさん、及びこの旅行のために多大なご支援を下された関係各社の方々にお礼申し上げます。有難うございました。

こんごともこの旅行は続けられると思いますが、海外の出版社は輸入協会の代表者として迎えてくれます。対外親善の為にも欠かすことの出来ない旅行の一つとして、どうすればより多くの人に参加していただけるか、協会の一人一人の皆さまと考えてゆきたいと思います。

1975・フランクフルト・国際図書展・あとさき

山 本 高 行

(1)

晴れた澄み切った青空から見下すフランクフルトの町は緑の森に囲まれ、落着いたメイン川の流れて沿ってあり美しい。空港から市の中心部へ通ずるアウトバーンも気持ちがよい。しかし日曜日のフランクフルトの姿は何とまったく変わってしまうことか？西ドイツ国鉄の中央駅前の繁華街に出てみると、西ドイツの都市であることを忘れさせてしまう。イタリアを始め東欧や中近東からの出稼ぎ労働者達の圧倒的な数の姿のみで、殆どドイツ人が見当らず何か錯覚を起こさせる、所謂国際都市なのだろう。

そんな都市で、数えて才27回の国際図書展が本年も10月9日から14日までの5日間、広大な催し物会場で開催された。

市電の停車場側の入口から歩けば、優に5、6分はかかるだろう。広い敷地の一部が国際図書展の会場である。一番大きい建物を真中に三つに分けられていた。

(2)

日本関係の出版社のスタンドがあるのは、その Halle 5 と呼ばれている棟である。

今年は世界各国から64ヶ国約3,900社が参加、出品しているとのことであった。これは例えば2年前の1973年の59ヶ国、約3,600社と比べると5ヶ国と約300社程と数の上では漸増し、年々隆盛を窮めている姿には変わらない。また入場券も当日券2.5マルク、5日間の通用券も5マルクと変わってなかった。ただ今年の特徴は1975年が「国際婦人年」であることに因んで“The Woman”と題する特別展示が行われていたことであろう。

まず会場を一巡後、日本関係のスタンドを回ってみるに、1973年には独立参加した出版社は32社を数えたが、本年は28社と4社ながら減り、また統一団体参加した出版社は1973年は22社であったのが、本年は35社と12社も多くなっていた。集計してみると、1973年が54社、1975年が63社と漸増しているのが数の上での比較した姿である。独立参加組は各社独自のスタンドを持ったのに対し、統一団体組はBooks from Japanのタイトルのもとに集合体として展示を行っていた。

因なみに西ドイツの隣国スイスは小国ながら約380社の

参加だが、約三分の二強の出版社は統一団体参加の方式によるものであった。地元西ドイツの約500社近い数を別にすれば、やはりイギリスの400社を超える数が最も多く、アメリカは340社程を数えるに過ぎなかった。数でみる限り伝統の国イギリスは出版王国と言えよう。

スタンドの作り方にも各社、各国それぞれ様々な工夫が見られ、パンフレット類の置く場所や本の展示の方法など、あるいは商談のためのテーブルや椅子の取りようなど比較してみると興味深い。来訪者に対し開放的であると同時に、商談への配慮も十分——やる気十分と言ったところが印象的であり、これは小生の如き比較好きの人間にとっては、尚更のことであった。

日本のスタンドは(Books from Japan)、この点に関する限り、閉鎖的と言わざるを得ない奥の院的発想——失礼／＼無目的か——で、その配列の順序もまったく羅列的で意味がわからない。単に極論すれば、展示すればそれで終りといった軽い気持を脱却し、出版の国際化にも積極的に対処せねばと強く感じた次第だった。極めて難解な社名を麗々しく掲げる前に一考を要しないものかどうか？本はその内容を第一に考えるべきものではなかったか？

YASUNARI, KAWABATAの〇〇社でまたMISHIMAの〇〇社でもよいのではないか？あるいはもっと外国の関係者に理解し易いジャンル別とか他に適当な方法はまだまだ検討の余地がある筈。そういう意味ではスイス、イタリア、フランスあるいは、中国、ポーランド、ソヴィエトなどに見られるようジャンル別の方法も来訪者には便利で都合が良いのではないか？日本の主催側もそろそろ反省すべき時点に来たことを考慮すべきであろう。

数を競う時代は終わった。何故出品するのか目的についての共通認識をまず持つべきではないか？その目的をヨーロッパのビジネスの風土の中に如何に明確に示すべきや。そこには日本的個性が現れてよいではないか？——富士山や芸者ガールでは勿論問題であるが——さらに参加する出版社の自己主張を堂々と表明したらよいではないか？「俺達は観光に来たんだ。図書展に来たのではないんだ！」と平気で嘯く連中は、最初から関係しない方がよい。プロ意識に徹し給えた。

《次号つづく》

＜ペンギンとその機構＞（第5回）



野村 知 成

＜Warehouse と Distribution Centre＞（その3）

Cartrac System に於ける Track の総延長距離は、約 1500 フィートで、常時 120 の Carriers が運行している。この System の特色は、何と言っても、Carrier が不要な Area に寄らないと言う事である。つまり Carrier は出発時点に於いて、受註した本を集品すべき必要な Area のみから Call される様 Code される事である。コンピュータから出る Picking Document は、Picking Area、Area 内の商品の配置順序の通り、集荷すべきタイトルをリストしている。Picking Document は、集荷に必要な Carton の数、サイズ、タイプも Console Operator に指示する。この様にして、Picking Area での Order Picker は Carrier の運行ルートに関しては、何ら係りを持たず、集品作業が進められるわけである。

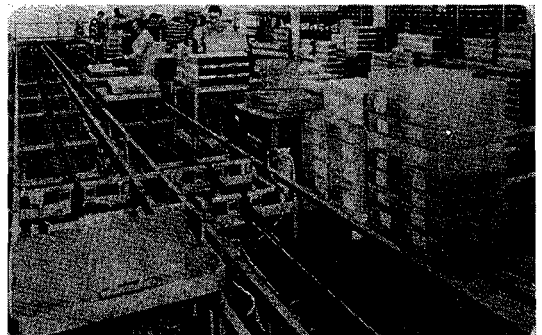
Picking Area の商品は、集荷作業が進行すれば当然減って来る。減った商品を補充するのも Cartrac System である。各 Picking Area の背後にある棚に、次々補給するわけだが、それは、Packing Area から帰って来る空の Carrier を利用して行われる。空の Carrier は商品補充 Area (Replenishment Area) を必ず経由する様ルートが出来ている。Replenishment Area では、補充要求があれば、Console へ帰る Carrier に必要タイトルを積んで、Picking Area へ行く様 Code される。Replenishment Area は、Packing Station と Picking Area A との間の「コの字」型の部分にある（前回の図表参照）。

Cartrac はフロアスペースを最大限に利用するため、Track があちこちで直角に交っている。交差部分は、全部で 37 ケ所あるが、中でも中心になる部分は 10 トラックが集中的に交差している。Carrier の交差点での動きは、完全な Automatic 方式で、水平に回転する車輪と空気圧の力を利用した働きを、電子回路でコントロールする事によ

って、Carrier に与えた運行予定通りの方向へ進める事が出来る。Carrier の運行は出発から帰着まで、完全に一巡すれば約 30 分を要する。

この Cartrac System を考案するに当って、諸々の技術的メカニズムの問題も、たしかに大きな問題であったが、それにもまして困難を要したのは、各 Picking Area への仕事量の配分であったという。この事は、ペンギンを見学した折にも強調して説明していた事でも明らかな様である。仕事量の配分の問題は、単に扱い点数の機械的な平均的配分では解決にならない。すぐ気づく事で言えば、非常によく売れるタイトルを扱う Area は非常に仕事量がふえる。売れ行きのよいものばかり一つの Area に集中すれば、当然仕事の流れは、その Area で渋滞する。しかも売れ行きは、新刊が出たり、重版が出たり、読者の傾向が変れば、このバランスは変って来る。Picking Area 毎の仕事量のバランスの問題は、現在も修正を常に心がけて行われている。

現在この System は約 200,000 冊を毎日こなす事が出来る容量をもっている。テキスト採用の時期になると、1 日 17~18 時間稼働して 30 万 40 万の作業をする事もあると聞く。しかし Daily の絶対量が 20 万冊をこえる様になったらどうするのか。Picking Area などを増設する事によって 50% 作業量をアップする余地は充分に残っていると Penguin は言っている。（次回へ続く）



Cartrac system と packing-station

海外ニュース

「英国書籍の出版点数上昇」

年初には、1975年の出版点数は前年より実質的に下廻るであろうと予測されていたが、依然として出版点数は伸び続けているようである。

1975年1月から9月までの出版点数は26,820点で、1974年の同期の23,938点に比し2,902点も増加している。この2,902点のうち重版は252点にすぎないから、新刊書(初版)が大きく伸びていることがわかる。

7月に1月から6月までの半年間の結果が発表されたとき、この出版点数の伸びは、1974年のエネルギー危機やストによる操短のため1974年に出版さるべきものが1975年に繰り越されたのであろうと云われたが、依然として続いている上昇傾向は、その繰り越しがまだ続いているためか、あるいは出版社がもっと大がかりな増産を意図しているのか、今のところまだはっきりしていない。

分野別に出版点数を比較すれば次の通りである。

	1974	1975	(増減)
美術	823	942	(+119)
伝記	771	902	(+131)
化学・物理	517	786	(+269)
児童書	1,875	1,941	(+66)
商業	532	588	(+56)
教育	703	785	(+82)
工学	693	785	(+92)
小説	3,215	3,043	(-172)
歴史	909	989	(+80)
産業	303	355	(+52)
法律・行政	643	822	(+179)
文学	586	736	(+150)
医学	1,066	1,402	(+336)
自然科学	812	884	(+72)

政治	1,766	2,074	(+308)
宗教	780	822	(+42)
教科書	1,268	1,684	(+416)
社会学	565	758	(+193)
旅行・ガイド	468	459	(-9)

(The Bookseller 10月11日号より)

——紀伊國屋書店提供——

ニュース

- ☆ 英国 Penguin Book Ltd. の Export Manager, Mr. Edward J. A. Marquis 10月中旬来日。
- ☆ 東独 Buchexport の Vice General Manager, Mr. F. Schubert および Mrs. R. Sielaff 10月上旬来日。
- ☆ 米国 Kraus 社の Vice President, Mr. J. Alper 11月上旬来日。

通関統計

外国貿易概況(大蔵省関税局編、日本関税協会発行)

1975年7月号所載。

書籍、新聞、雑誌の輸入額。

昭和50年7月 \$8,665,000 1月以降累計 \$59,774,000

昭和49年7月 \$7,559,000 " \$45,807,000

(註) この統計は、C I F 価格で10万円以下の少額貨物は含まない。

事務所移転ご案内

今般次の通知がありましたのでお手許の会員名簿の訂正をお願い致します。

日本ブレンティスホール(株)

〒107 東京都港区赤坂2-12-23

赤坂マンション 405

☎ (03) 583 ~ 2591 (代)

お知らせ

British Council Course on Bookselling

1976年8月15日から9月25日まで British Council 主催によりロンドンで書籍販売業務についてのセミナーが開催されます。募集人員20名、会費£525. このセミナーは1965年以来つづいているもので本会が第6回にあたります。詳細については事務局または British Council へお問合せください。

お詫びと訂正

前回102号の「創設期の社と文学書」の右側13行目と14行目が入違いになっております。お詫びかたがたご訂正願います。

Wiley, Wiley and Long (George Long との協同経営時代 Wiley and Putnam (George Palmer Putnam)

総代理店ご案内

次の通り日本総代理店の案内がございました。

お手許の Agent List にご記入願います

㈱ 南 江 堂 ☎ 811-7234

Addiction Research Foundation

Khanna et al. (ed.): Alcoholic Liver Pathology
(International Symposia on Alcohol and
Drug Problems, No. 4) ¥9,250

Churchill-Livingstone

Leatham, A.: Auscultation and Phonocardiography,
2nd ed. in prep.

Little, Brown & CO.

Surgical Techniques Illustrated (all volumes)
each ¥8,750

C. V. Mosby CO.

Goldberger, A. L.: Myocardial Infarction-
Electrocardiographic Differential Diagnosis
¥7,300

Williams & Wilkins

Truex, R. C. & M. B. Carpenter: Human
Neuroanatomy, 7th ed. in prep.

会員の横顔

日本出版貿易株式会社

村山 俊男

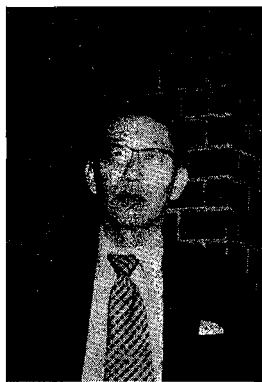
新聞を丹念にみる方は、十月末の「日経」のある広告に、オヤッと思われたにちがいない。五段抜きの洋服の広告に、三人の貿易マンが顔を揃えているのだが、その一人がここに御紹介する村山さんなのである。御本人に云わせると、「会社の名前を出すというし、年令は書かないというから引き受けた」のだそうだが、唯の洋書屋ではない村山さんの片鱗がこんなところにも窺える。

大正十年佐賀の生れ。といっても父上が物産マンであったから各地を転々。小学校は東京と逗子、中学は仙台と麻布と変っている。それでいて東京商大にスナリ入学し、学徒動員を受けると、当時四百人に一人と云われた海軍計理学校の試験に合格し、海軍士官になったのだから、その俊才ぶりは相当なものである。

玉碎寸前の硫黄島から父島に転勤を命ぜられたおかげで命拾い。財閥解体のあおりで物産マンにはなれなかったが、中学大学と同級であった望月日貿社長に招じられて昭和27年日貿入社。洋書との縁もこの頃から始まったわけだが、仕事のメインは一般貿易で、今までに手がけた商品は数限りない。十年程前にニューギニアに乗りこんだ時は、シャツ、ネクタイ、ベルト、ズボン、靴と身につけたものは全部サンプルで、つまり彼自身動く商品陳列室となり、その上乘っていた自動車まで売り歩いたという。その時扱った商品のリストには婦人下着もあるが、それまで身につけていたかどうかは聞き洩らした。

その頃からインドネシアのグヌングァグング社の役員も兼ね、その間のいきさつは東販が出している「書店経営」の十月号に寄せた彼の随筆「とめどない思い出」に詳しい。

人に云える趣味は碁と釣りだという。人に云えないそれを追及したところで、頭の良い村山さんには適当にさばかれてしまいそうだから、敢てしないことにする。御家族は奥さまと、慶大三年の御子息、ということを書かなければ四十代で通る彼なのだが、本欄は広告ではないので、キビシイ態度を崩さぬことにした。



ドイツ語文献を検索する——

Verzeichnis lieferbarer Bücher GERMAN BOOKS IN PRINT

Published by : Buchhändler-Vereinigung

Distribution by : Verlag Dokumentation

VLB 1975/76

Cumulated Author, Title and Key Word Index

Buedel

Büdel, Julius /Imber, Walter: Spitzbergen Insel im Polarlicht 160
S., 44 Farbtaf., 48 Fotos. BLV Im 48. (3-405-11008-4)
[GW][K][KO][U]
Buhler s. Hattenschwiler /Buhler
Buhler, Curt F. s. Festschrift für Claus Nissen
Bühlmann, Wolbert: Wo der Glaube lebt: Einblicke in die Lage der
Weltkirche. 1974. 342 S. Herder Freiburg i. d. R. 29.50
(3-451-17085-X) [K]
Die Bündische Jugend s. Raabe, Felix
Bürgerliche Gedichte s. Kropcke, Karol
Die bürgerliche Revolution 1848/49 s. Thiede, Wolfgang
Bürgermeister s. Müller, Gerhard /Beck, Erwin: Besatzungsabgaben für
Landesbeamte und Kommunalbeamte einst. Landräte,
Bürgermeister, Beigeordnete; in Baden-Württemberg
Bürgermeister s. Lesner, Max: Ein ehrbar Rath und ganze
Bürgerschaft
Bura s. Mausener, Franz: Das vielasaphische Bura
Bura s. Schneider, Wolfgang: Richtig fahren im Bura
Bützler, Wilfried: Rotwild 1972. 166 S., 33 Abb., 15 Zeichn. BLV
Im 22. (3-405-11074-2) [GW][K][KO][U]

ISBN Index

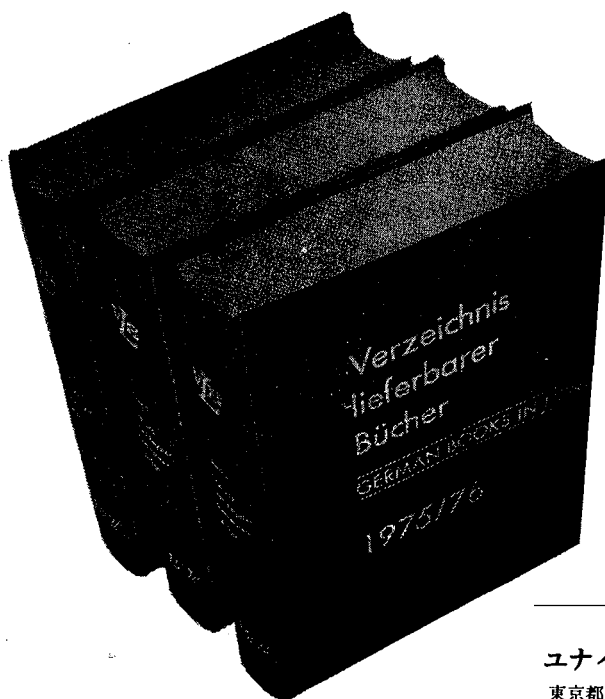
3-541-03881-0

3-540-07128-8 123 341
3-540-07129-6 122 339
3-540-07130-X 41 231
3-540-07131-8 236 3 6
3-540-07132-6 69 3 1
3-540-07133-4 115 240
3-540-07134-2 18 321
3-540-07135-0 224 351
3-540-07136-9 195 239

Publisher's Index

'Buchhändler-Vereinigung' Buchhändler-Vereinigung GmbH, D-6000 Frankfurt 1, Großer 7657
Hirschgraben 17-21, Pf 2404
'Buchhandlung Johannisstift GmbH' Buchhandlung Johannisstift GmbH, D-1000 Berlin 9800026
20, Schönwolder Allee
'Roter Stern' Buchhandlung und Verlag Roter Stern GmbH, D-6000 Frankfurt 1, 87877
Maizhausenstr. 4, Postf. 180147
'Buchkreis für Besinnung' Buchkreis für Besinnung und Aufbau GmbH, D-6101 Seeheim, 921181
Am Herberberg 7
'Buch-Kunstverlag Ettal' Buch-Kunstverlag Ettal, D-8101 Ettal, Benedictinerabtei 87112

<記載項目>: 著者名・共著名・編者名／書名／副書名／出版年・版次／
装丁／巻数／ページ数・図版／出版社名／価格／国際標準
図書番号／取次業者の略名



- 西ドイツ, オーストリア, スイスで, 現在市販され, 入手できる, ドイツ語で書かれた図書を網羅した目録。
- 著者名, 書名, キーワードが, アルファベット順に累積配列されているので 検索しやすい。
- その図書の在庫を持つ取次業者の略名を付す。
- 国際標準図書番号 (ISBN) の索引と全出版社の住所録を付す。
- 最新第 5 版, 4,800ページ, 11"×8", 1975年10月出版。

全 3 巻 48,960円

日本総代理店

ユナイテッド・パブリッシャーズ・サービス社

東京都千代田区麹町4-1 志村ビル / 電話 (03) 262-5278

昭和50年11月 通巻第103号 洋書輸入協会 編集者 寺久保一重
☎ 103 東京都中央区日本橋1丁目20番3号 藍沢ビル302号室 ☎ 271-6901
☎ 530 関西支部 大阪市北区芝田町28 第一山中ビル ☎ 371-5329